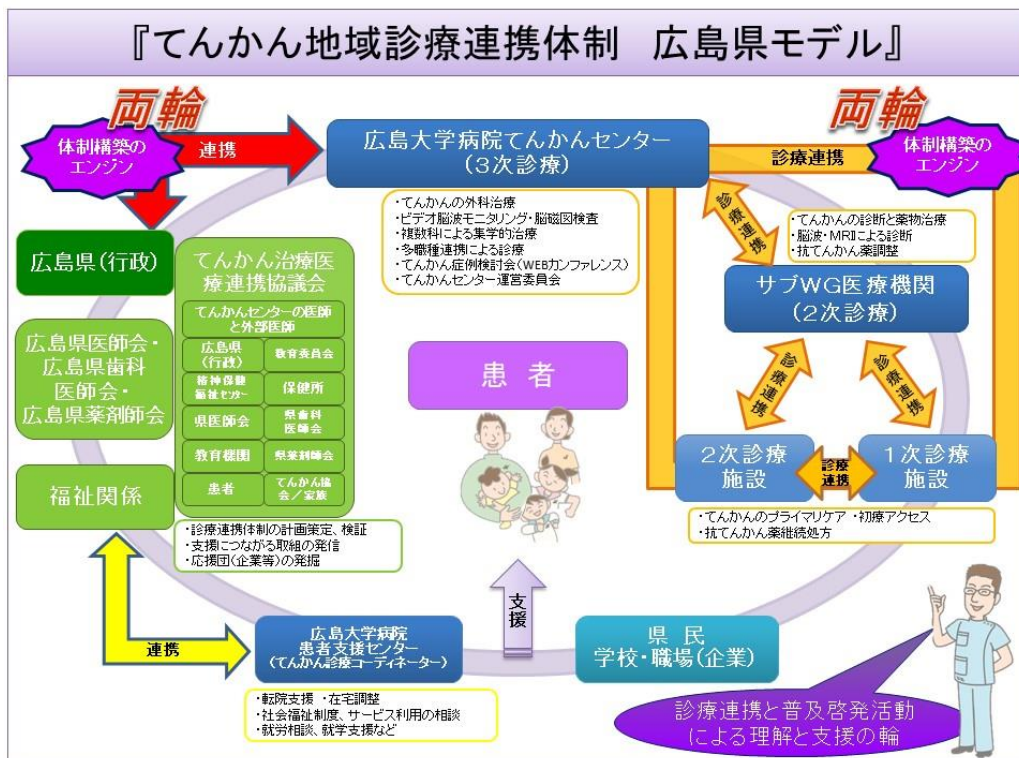


2.2. 広島県てんかん地域診療連携体制整備事業（2021年度）

広島大学病院てんかんセンター 飯田 幸治

まとめ

- てんかん治療医療連携協議会およびサブワーキンググループを設置し、引き続き診療連携体制の構築について検討を行っている。今年度新たに広島県薬剤師会がてんかん治療医療連携協議会に参画し、抗てんかん薬の情報提供など協力を得ている。また、事業の効果の検証として、広島大学病院において平成27年（2015年）12月から6年間にわたり指標に基づくてんかん患者調査を継続して行っている。
- 研修・普及啓発活動では、教育関係者向け研修会4回（特別支援学校3回、普通学校1回）、医師、看護師、薬剤師など医療従事者向け研修会8回、福祉関係者向け研修会1回の計13回開催し、てんかん疾患の正しい知識や最新情報の伝達、てんかん診療の質の向上および啓発を図った。昨年度に続きオンライン形式での開催が主体となったが、広島県の活動を全国に周知できるというオンラインならではのメリットがあった。
- 本事業推進の方向性を分かりやすく周知するために「広島県モデル」を作成し実施している。このモデルの特徴は、広島県（行政）と医療機関（特にサブワーキンググループ医療機関（2次診療））を体制構築のエンジンとして、患者を中心にこの両輪で多職種連携を回している点である。広島県（行政）との連携では、今年度の新たな取り組みとして、県ホームページに本事業を紹介するページの作成、てんかん啓発メッセージ動画のデジタルサイネージでの放映など患者支援につながる取組発信の協力を得ている。



1. 活動報告

1) てんかん治療医療連携協議会

てんかん治療医療連携協議会では事業計画の策定、事業効果の検証などを行っている。

委員数：16名

構成：医師5名（広島大学病院医師4名，外部医師1名），医師会1名，歯科医師会1名，薬剤師会1名，てんかん患者1名，てんかん患者の家族1名，行政関係者5名，医療福祉大学関係者1名

開催回数：2回（R3/5/19 WEB開催，R4/3/4 WEB開催予定）

2) てんかん治療医療連携協議会サブワーキンググループ

サブワーキンググループではWEBカンファレンスでの症例検討，連携体制の仕組作りの検討を行っている。

委員数：13名

構成：広島大学病院医師4名，2次診療施設（全保健医療圏の中核となる医療機関）9名

開催回数：2回（R3/6/16 WEB開催，R4/2/2 WEB開催）



3) 遠隔てんかん症例検討会

広島大学病院てんかん症例検討会では，てんかんセンターの複数診療科の医師と看護部，薬剤部，診療支援部，および臨床研究開発支援センターなど組織横断的に人員が参加して，症例検討，治療方針の決定を行っている。

症例検討会はWEB会議システム（Zoom）を利用して遠隔カンファレンスで行っており，サブワーキンググループ医療機関のみならず県内外の医療機関からの参加があり，広島大学病院との間で症例発表，検討を行うことで，てんかん診療のレベルアップとてんかん診療ネットワークの構築を図っている。今年度からWEB会議システムを変更して利便性が向上したため，県内外の医療機関からのWEB参加者が増加した。

（R3/4月～R4/1月開催分）参加人数：計414名（広島大学182名，サブWG96名，その他医療機関136名），症例提示数：28症例

4) 研修会

①教育関係者向け研修会

- ・てんかんを持つ児童の教育現場（特別支援学校）において，てんかん発作への適切な対応や最新治療法の情報共有を行うため，広島県内の特別支援学校にて研修会を開催した。

開催回数：3回（現地開催2回，オンライン開催1回）

参加人数：計340名（現地278名，オンライン62名）

※内2回は日本てんかん学会GSK医学教育事業助成セミナー共催事業として，広島大学病院てんかんセンターおよび協議会委員から講師を派遣した。

- ・普通小学校の教職員，養護教諭を対象として，教職員が知っておくべ

きてんかんの症状や発作時対応について研修会を開催する予定。

開催回数：1回（オンライン開催） 参加見込人数：40名

②医療従事者向け研修会

- ・医師，看護師，薬剤師など各職種向けに，てんかんの基本，発作症状，診断と治療，発作対応についてセミナーを開催した。

開催回数：7回（オンライン併催）参加人数：計1,088名

※内2回は日本てんかん学会G S K医学教育事業助成セミナー共催事業，4回は後援として広島大学病院てんかんセンターから講師を派遣した。

- ・臨床検査技師，医師を対象とした「てんかん脳波セミナー」を開催し，脳波判読技術のレベルアップとてんかん診断の質の向上を図った。

開催回数：1回（LIVE同時配信）参加人数：341名（内LIVE視聴323名）

③福祉関係者向け研修会

- ・障害者事業所，障害者自立支援事業所等の職員を対象として，てんかんに関する理解と支援について研修講演会を開催した。

開催回数：1回（オンライン開催）参加人数：30名

※日本てんかん学会G S K医学教育事業助成セミナー共催事業として広島大学病院てんかんセンターから講師を派遣した。

教育関係者向け研修会					
開催日	研修名	研修内容	対象者	参加人数	開催方法
R3.6.14	広島県立福山北特別支援学校てんかんセミナー	てんかんの病態と発作時対応について	特別支援学校教職員	46名	現地開催
R3.6.15	広島県立福山特別支援学校てんかんセミナー	てんかんの病態と発作時対応について	特別支援学校教職員	62名	オンライン開催
R3.7.28	広島市立広島特別支援学校てんかんセミナー	てんかんを考える～発作の見方，対応の仕方	特別支援学校教職員	232名	現地開催
R4.2.15 (予定)	海田町立海田南小学校てんかんセミナー	てんかんを考える～発作の見方，対応の仕方	普通学校教職員，養護教諭	40名 (見込)	オンライン開催
医療従事者向け研修会					
R3.6.5	看護師向けてんかんセミナー	看護師が知っておきたい「てんかん」の基本	看護師	来場3名 LIVE22名	オンライン併催
R3.6.26	薬剤師向けてんかんセミナー	薬剤師が知っておきたい「てんかん」の基本	薬剤師	来場2名 LIVE544名	オンライン併催
R3.6.29	Epilepsy Summer Camp	てんかん脳波所見と診断治療，脳卒中後てんかん	医師	26名	オンライン開催
R3.8.4	Epilepsy Network Conference	てんかん薬物療法，てんかん外科の現状と展望	医師	36名	オンライン開催
R3.8.24	広島県教育委員会看護師研修（理論研修）	てんかんに関する理解～発作の見方，対応の仕方	特別支援学校配置の看	65名	オンライン開催

			看護師		
R3.10.2	てんかん脳波セミナー	てんかん学の講義、脳波判読の基本	臨床検査技師、医師	来場 18名 LIVE 323名	オンライン併催
R3.11.12	Epilepsy Expert Meeting	小児てんかん診断治療、抗てんかん薬の長期服用	医師	28名	オンライン開催
R3.11.29	Epilepsy Autumn Camp	発作症候によるてんかん診断、脳卒中関連の発作	医師	21名	オンライン開催
福祉関係者向け研修会					
R3.5.22	福祉関係者向けてんかんセミナー	てんかんに関する理解と支援について	障害者事業所等職員	30名	オンライン開催

5) 普及啓発活動

①市民フォーラム

一般市民（地域住民）、てんかん患者その家族を対象に、疾患に対する正しい理解と適切な治療を学ぶ機会として市民フォーラムを開催し、専門医による最新治療法、難治性てんかんの治療、乳幼児期から思春期のてんかんの特徴、高齢者のてんかん治療についての講演、質問へのアドバイスを行った。広島市での開催は来場に加え YouTube による LIVE 同時配信を行った。

また、開催地を広島市内から地域へも広げ、2次保健医療圏域の廿日市市においても開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大によりまん延防止等重点措置の適用となり中止となった。事前に募集のため作成したちらし（1,000枚）を県内医療機関（71施設）、特別支援学校や市町精神保健福祉施設など（20施設）に配布しており事業の周知は行えた。

開催回数：広島市 1 回（11/21 LIVE 同時配信）
参加人数：169 名（内 LIVE 視聴 90 名）

②サンフレッチェ広島とのコラボレーション

てんかん疾患に対する正しい理解を持ってもらうため、紫をチームカラーとするサンフレッチェ広島と広島大学病院てんかんセンターがコラボレーションして、てんかん疾患の啓発活動を引き続き行っている。疾患啓発ポスターを作成し、広島県市町精神保健福祉窓口（約 20）および広島県内の薬局（約 1,500）に配布し掲示を依頼した。

今年度の新たな取り組みとして、サンフレッチェ選手のてんかん啓発メッセージ動画を広島県の協力によりデジタルサイネージで放映（R3.7～R3.12）、広島大学 YouTube にも動画を公開（R3.4～R4.1）した。例年パープルデーにあわせて実施してい

るエディオンスタジアムでの啓発活動（ボランティアによるチラシ配布など）は未定※H31. 3月のエディオンスタジアムでの啓発活動では、ボランティア約60名が参加し来場者にチラシ、缶バッジ約3,000を配布した。



疾患啓発ポスター



デジタルサイネージ動画



サンフレコロラボ缶バッジ

6) 事業の効果の検証（てんかん患者調査）

地域のかかりつけ医（1次診療）から、専門医（2次診療）、地域診療において中核を担う3次診療の三者が連携して、患者が適切なたんかん診療を受けられるよう「てんかん診療ネットワーク」を構築することを目的に、広島大学病院において平成27年（2015年）12月から6年間にわたり事業の指標に基づいててんかん患者調査を継続して行っている。

事業効果の検証として、調査開始3ヶ月（平成27年12月～平成28年2月）と直近3ヶ月（令和3年10月～12月）のデータを比較すると、広島大学病院を受診する初診目的では、薬物調整の割合が4%から29%へ増加、難治性の割合が5%から12%へ増加していた。また、広島大学病院での治療を経て他の医療機関へつないだ（紹介した）割合が8%から25%へ増加、広島大学病院が従たる病院として治療中の割合が9%から27%へ増加していた。（※従たる病院とは、紹介元で薬物調整を行い広島大学病院へは定期的に通院している状況）

この結果から、広島大学病院がてんかん診療拠点としての役割を担い、広島大学病院での治療を経て紹介元や他院へ紹介し、日常の治療はかかりつけ医で行い、広島大学病院（3次診療）で定期的にフォローし、患者に適切な診療を提供するというてんかん診療ネットワークの構築が進んでいると考えられる。

2. 成果

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により対面での研修会開催が困難な状況において、オンライン開催を主体に、教育関係者、医療従事者、福祉関係者等幅広い職種を対象とした研修会を13回開催し、てんかんについての助言・指導を行い地域におけるてんかんに関する普及・啓発活動を継続することができた。オンライン開催のメリットとして広島県以外からの参加者も多くあり、広島県の活動を全国的に周知することができた。

また、令和3年4月1日付けで日本てんかん学会認定包括的てんかん専門医療施設に認定されたことも、本事業において継続して取り組んできた様々な活動の成果といえる。

今後は、2次診療施設への普及啓発継続と、地域医師会を含む1次診療施設への連携を拡大し、てんかん診療連携をより強固な体制にすべく推し進めていきたい。